国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所四国支所 公開講演会

平成30年11月20日(火)

「皆伐（かいばつ）」をめぐる四国の山の現状と課題

平成30年 11月20日(火)

13:00～16:50

受付開始 12:30

入場無料

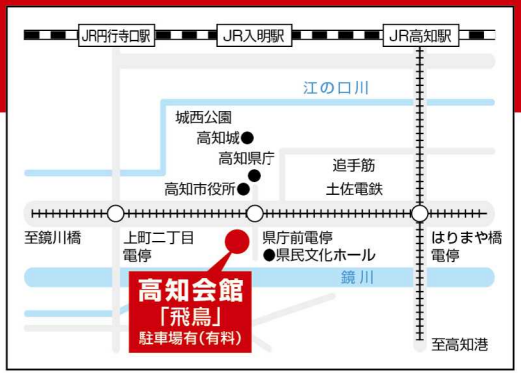
事前申し込み不要

定員 100名 先着順

開催会場：高知会館「飛鳥」

高知市本町5-6-42

TEL:088-823-7123



国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所 四国支所 地域連携推進室

〒780-8077 高知市朝倉西町 2-915

TEL:088-844-1121(代) FAX:088-844-1130

E-Mail koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp URL https://www.ffpri.affrc.go.jp/skk/

主催：国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所四国支所

後援：四国森林管理局、高知県、高知県森林組合連合会、高知新聞社、RKC高知放送局、NHK高知放送局、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ

※(1)開催に要する経費は全て主催者の予算で対応します。(2)会場内での物販等、営利を目的とした行為は行いません。

平成30年11月20日（火）

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所四国支所　公開講演会

「皆伐」をめぐる四国の山の現状と課題

国産材に対する需要が増加し、増産が求められています。皆伐は伐木、集材の作業効率がよい点で、林業の低コスト化が可能であり、この要望に応えられる有効な作業方法です。一方、近年、様々な理由により皆伐跡地に必ずしも再造林が行われず、また、たとえ植栽してもシカによる食害で成林できない場所も増えており、将来の森林資源の減少や放置された皆伐跡地の増加による山地の荒廃など、国土保全上の問題も懸念されます。

将来の森林資源を確保し、国土を保全するためには皆伐地の確実な再造林が必要です。そこで、この講演会では、皆伐について現在生じている問題、課題について整理し、今後、皆伐が増えるであろう四国の山の将来について考えてみます。

主催者挨拶	13:00	小林　功（森林総合研究所四国支所長）
基調講演	13:10	「主伐再造林が進む九州で見えてきた課題」 藤掛　一郎（宮崎大学農学部教授） 宮崎県ではスギの成長がよく、早くも90年代から主伐が増加を始めた。近年は素材生産量が一層増加し、林業・木材産業の成長が実現する一方、主伐後の再造林放棄等により縮小する人工林資源が成長した産業を将来にわたって支えうるか懸念が生じているほか、誤伐盗伐が社会問題化するなど、新たな問題に直面している。森林所有者の経営意欲・能力が低下する中で、いかに木材産業の今日的要求に応え、かつ持続性を担保できる供給体制を作ることができるかが課題である。
講　演	13:55	「四国支所における皆伐に関わるこれまでの研究と課題」 酒井　敦（森林総合研究所四国支所人工林保育管理担当チーム長）
休　憩	14:25 ～ 14:30	
	14:30	「四国の国有林における皆伐に関わる状況」 松本　寛喜（四国森林管理局森林整備部長）
	14:50	「高知県における皆伐に関わる状況」 竹﨑　誠（高知県木材増産推進課課長補佐）
	15:10	「徳島県における皆伐に関わる状況」 廣田　順也（徳島県林業戦略課新次元プロジェクト推進室林業生産担当室長補佐）
	15:30	「愛媛県における皆伐に関わる状況」 石川　実（愛媛県農林水産研究所林業研究センター主任研究員）
休　憩	15:50 ～ 16:00	

＜パネルディスカッション＞　16:00 ～ 16:45

コーディネーター	堀　靖人（森林総合研究所　地域イノベーション推進担当コーディネーター）
パネリスト	基調講演者、講演者 井上　嘉久（香川県みどり整備課森林政策グループ課長補佐）

閉会挨拶	16:45	鹿島　潤（森林総合研究所四国支所　産学官民連携推進調整監）